

13. 倭の五王が活躍した古墳時代中期

古市古墳群・百舌鳥古墳群が造られた時代、すなわち5世紀前後を古墳時代中期と呼びます。この時代は応神（おうじん）天皇や仁徳（にんとく）天皇、雄略（ゆうりゃく）天皇らの大王が活躍した時代で、彼らの中には中国の歴史書にも登場した王もいます。

古墳時代中期は、仁徳陵古墳や応神陵古墳に代表される巨大な古墳がいくつも造られた時代です。中期の古墳からは、鉄製のヨロイ・カブトが大量に出土します。こうした特徴から、当時の大王や豪族は武人的な性格が強まったと考えられます。この点は、古墳時代前期の大王や豪族が呪術的な性格が強かったことと対照的です。

また、中期は技術革新の時代でもありました。古墳に副葬された大量の鉄製品の生産を可能にした鍛冶技術や、灰色で硬い土器、すなわち須恵器を作る技術がこの頃伝わりました。これらの技術は、朝鮮半島などから渡って来た人々、すなわち渡来人によってもたらされました。

このように古墳時代中期は巨大古墳と技術革新の時代で、朝鮮半島や中国と交流を深めた時代でした。